

第38回 オジロワシ・オオワシ渡来状況調査結果

日本野鳥の会福井県 調査担当 小嶋 明男

- 1 目的 三方五湖に飛来するオジロワシ・オオワシの個体数と越冬期の生態の把握
- 2 調査日時 2022年2月6日(日) 8:00~11:30 (大雪と吹雪のため調査時間を短縮)
- 3 天候 天気:雪時々曇 積雪:約40cm 気温:2~3℃ 風:NW1~4
- 4 調査方法 三方湖・水月湖の湖岸3定点観察で、観察および無線連絡による追跡観察
- 5 調査結果

(1) 確認できた海ワシ オジロワシ1個体

(2) 確認できた海ワシの特徴

*前日までの事前調査での確認事項

・オジロワシ雌成鳥

頭頸部は淡褐色、嘴は黄色・尾羽は白色

左次列1,2枚目が少し短い

右初列8枚目が半分折れている

(3) 主な行動

- ・三方湖北西部を飛翔する
- ・稜線近くのマツの樹冠に止まる

(4) 行動範囲

- ・三方湖北西部の湖面および長尾島西部



2022.1.8 三方湖で魚を捕獲したオジロワシ 撮影:小嶋明男

6 行動記録

- 10:16 「瀬戸(せど):三方湖と水月湖の境」南を飛翔するのを発見
羽ばたきながら東から西に向かう
- 10:16 定点前の稜線で遮られ、消失(その後吹雪で視界なくなる)
- 10:22 長尾島西部の稜線近くの松の樹冠に止まっているのを発見
- 10:25 吹雪で視界が遮られる
- 10:30 吹雪が止んだが、止まっていた場所にいなかった

7 この冬のオジロワシの個体について

この冬、三方五湖での初認は2022年1月6日であった。最近5年間には12月中旬には渡ってきていたが、この冬は年が明けて1月6日という、近年稀にみる遅い初認であった。

左次列1,2枚目が少し短目という羽の特徴から、少なくとも2016年11月以来渡ってきている雌成鳥であろうと思われる。

わずかな観察時間の中であるが、ハンティングは主に三方湖で中型魚類の捕獲に成功し、三方湖北西部山地の中腹にある落葉広葉樹に運び、食べる事が多く見られた。なお、本調査および個人観察の記録から、当地におけるオジロワシの餌はほとんどが魚類である。

8 三方五湖におけるオジロワシ越冬の動向

当地においてオジロワシは2個体越冬が通常であったが、2009年冬に1個体だけの越冬となり、その2年後の冬には2月に入って2週間だけの滞在となった。そして2012年には、ついに越冬個体がなくなった。

ところが、2013年の冬からは4年連続2個体の越冬となり、その状態が続くかと思っていたが、2017年の冬からは1個体だけの越冬となって現在まで続いている。

三方五湖において、オジロワシにとって必要な餌が捕獲できることが、越冬を可能とする条件と考える。そのように考えると、かつて2個体越冬していたのが、最近1個体しか越冬できないのはそれだけ餌が確保できないことに起因していると思われる。捕獲の観察事例は圧倒的に中型から大型の魚類が多いので、これら魚類が生息可能となる生態系全体の再生が求められるといえる。

9 最近の三方五湖におけるオジロワシの越冬個体

観察期間	性・齢状況	初認～終認
2008.11～2009.2	第5回冬若鳥1 別の1個体は齢不明	2008.12.7～2009.1.31
2009.11～2010.2	成鳥1	2009.11.28～2010.1.17
2010.11～2011.2	成鳥1(雌) 第3回冬若鳥1(雄)	2010.12.19～2011.2.20
2011.11～2012.2	第2(3)回冬若鳥1 第4回冬若鳥1	※2012.2.5～2012.2.20 (2週間のみ立寄り)
2012.11～2013.2	越冬確認なし ※渡りの途中に立寄ったと思わ れる成鳥1	2013.3.3～2013.3.5(3日間)
2013.11～2014.2	成鳥2(雄・雌)	2014.1.18～2014.2.22
2014.11～2015.2	成鳥2(雄・雌)	2014.12.28～2015.2.24
2015.11～2016.2	成鳥2(雄・雌)	2015.12.30～2016.2.28
2016.11～2017.2	成鳥1(雌) 第2～3回冬若鳥1(雄)	2016.12.18～2017.2.28
2017.11～2018.2	成鳥1(雌) (若鳥・雄1)	2017.12.04～2018.2.22 (若・雄 2017.12.14～15)
2018.11～2019.2	成鳥1(雌)	2018.12.14～2019.2.18
2019.11～2020.2	成鳥1(雌)	2019.12.6～2020.2.21
2020.11～2021.2	成鳥1(雌)	2020.12.17～2021.2.16

8 今回の調査で観察された鳥類 計13科21種

カモ科/コハクチョウ・カルガモ ウ科/カワウ クイナ科/オオバン カモメ科/セグロカモメ ミサゴ科/ミサゴ タカ科/トビ・オジロワシ・ノスリ カラス科/ハシボソガラス・ハシブトガラス ヒヨドリ科/ヒヨドリ ヒタキ科/シロハラ・ツグミ・ルリビタキ・ジョウビタキ スズメ科/スズメ セキレイ科/セグロセキレイ アトリ科/ウソ ホオジロ科/ホオジロ・アオジ

9 調査者(括弧内は観察会兼任)

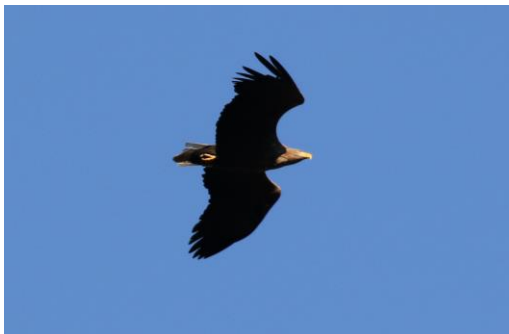
村上公輝・村上千夏子・井尻雅己・堀田雅貴

(山根眞一・平城常雄・田川亨・堀孝敏・堀田高久・高橋繁応・田中広幸・武田真澄美・小嶋明男)

○調査担当を引き継ぐにあたり

この調査を小嶋が担当して約30年が経過し、今回をもって担当を辞めさせていただく。これまで多くの皆様にお世話になったことに対し感謝申し上げます。次回2023年の調査から堀田雅貴さんが担当者となる。

彼は野鳥(特に希少猛禽類)の生態調査及び研究を行っている優れた研究者である。三方五湖のひとつの菅湖(すがこ)にやって来るオジロワシを彼は小学生のときから観察してきた。



2022.1.8 三方湖オジロワシ 撮影:小嶋明男

久保上宗次郎さんが「三方五湖海ワシ調査グループ(代表は故上木泰男氏)」を立ち上げ、本会と共同で始められた本調査を小嶋が引き継ぎ、そして堀田雅貴さんにバトンを渡すことができた。彼が新しい視点でこの調査を変えながら発展させていってくれることを期待する。

三方五湖に越冬のために渡ってくるオジロワシの個体数が減少している今、本会が三方五湖自然再生協議会の構成団体の一つとしてこれまで同様に関わっていくことが求められる。